

議員全員協議会会議録

平成28年 6 月 14 日

宮 古 市 議 会

平成28年6月宮古市議会議員全員協議会会議録目次

(6月14日)

議事日程	1
出席議員	2
欠席議員	2
説明のための出席者	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
説明事項(1)	3
説明事項(2)	8
説明事項(3)	9
閉 会	11

宮古市議会議員全員協議会会議録

日 時 平成28年6月14日（火曜日） 午後1時00分
場 所 市役所 6階大ホール

○

事 件

〔説明事項〕

- （1）宮古市副市長の選任について
- （2）人権擁護委員候補者の推薦について
- （3）その他

出席議員（27名）

1番	今村正君	2番	小島直也君
4番	佐々木清明君	5番	白石雅一君
6番	鳥居晋君	7番	中島清吾君
8番	伊藤清君	9番	内館勝則君
10番	北村進君	11番	佐々木重勝君
12番	須賀原千恵子君	13番	高橋秀正君
14番	橋本久夫君	15番	古館章秀君
16番	工藤小百合君	17番	坂本悦夫君
18番	長門孝則君	19番	佐々木勝君
20番	落合久三君	21番	竹花邦彦君
22番	松本尚美君	23番	坂下正明君
24番	茂市敏之君	25番	藤原光昭君
26番	田中尚君	27番	加藤俊郎君
28番	前川昌登君		

欠席議員（0名）

なし

説明のための出席者

説明事項（1）

市長	山本正徳君	副市長	山口公正君
総務部長	長滝澤肇君	総務課長	伊藤孝雄君
総務課副主幹 兼職員係長	田代明博君		

説明事項（2）

市民生活部長	岩田直司君	生活課長	佐藤裕子君
生活課 市民相談室長	山口純子君		

議会事務局出席者

事務局長	野崎仁也	次長	佐々木純子
主査	菊地政幸		

開 会

午後 1時00分 開会

○議長（前川昌登君） ただいまから議員全員協議会を開会します。

ただいままでの出席は27名でございます。会議は成立しております。

皆様にお諮りします。

説明事項の1及び2については、人事に関する案件でございますので、議員全員協議会運営要綱第3条第1項の規定により非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） 異議なしと認めます。

よって、説明事項の1及び2については非公開とすることに決定しました。

○

説明事項（1）宮古市副市長の選任について

○議長（前川昌登君） それでは、次第に従いまして会議を進めてまいります。

説明事項の1、宮古市副市長の選任についてを説明願います。

山本市長。

○市長（山本正徳君） それでは私から副市長の選任について、ご説明させていただきたいと思います。

震災からの復興の要となる産業振興、そして地方創生という最重要課題に取り組み、安定した仕事を持って子どもを幸せに育てられるまちづくりを強力に推進するため、経済産業省に職員の派遣を要請をいたしてまいりました。この度、経済産業省との調整が整い職員の派遣を受けることができる運びとなりました。次にご説明させていただく者を二人目の副市長として選任いたしたく、議会の同意を求めるものでございます。

今回、副市長に選任しようとする者ですが、

氏名、鈴木貴詞。

生年月日、昭和47年2月25日生まれ。

年齢、44歳でございます。

平成7年3月に中央大学法学部を卒業し、同年4月に当時の通商産業省に入省いたしております。主な経歴でございますが、

平成14年6月から、大臣官房会計課予算一係長として省内全体の予算編成を。

平成18年3月から、経済産業政策局企業行動課企画係長として税制改正要望の取りまとめを。

平成20年5月から、大臣官房秘書課服務一係長として職員の服務に関する業務を。

平成22年12月から、独立行政法人日本貿易振興機構、いわゆるJETROに出向し、上海事務所経済情報部長として、中小企業のタイ、中国ビジネス支援を。

また、平成27年7月からは、現職である通商政策局北東アジア課長補佐として、中国との通商政策の企画立案、日中間の経済交流の推進などを担当してきております。

このように、経済産業省の事業全般に通じ、産業に関する政策や海外との経済交流に精通していることから、冒頭にも申し上げたとおり、私の掲げる安定した仕事を持って子どもを幸せに育てられるまちづくりの推進に適任の人物であると考えてございます。議員各位には、何卒ご同意賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（前川昌登君） 説明が終了しました。この件についてご質問があれば挙手願います。

松本尚美君。

○22番（松本尚美君） まず質問の前にちょっと確認させていただきたいんですが、名越副市長が本省に帰られて以降ですね、市長の今の説明ですと経済産業省をお願いをしていたということなんですが、名越副市長が本省に帰られて、副市長を退任されて以降から流れがちょっと見えないですけれども。私はやっぱり事前にといいますか早い段階で、こういう方向といいますか人材をなんとか確保していきたいということを、中間であっても報告があつてしかなるべきかなと。いきなり決まったからという感じがするんですが。今日に至るまでの経過を教えてください。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） 名越副市長が帰りましてから、この後の復興、地方創生において経済的な力をもっと我々は持つべきだろうというふうに思っており、色々な方面に働きかけやら情報収集をしてまいりました。

やはり人事の関することでございますので、なかなか発表するといいますか、表明するのが難しい面がありまして、現在までこのようなかたちになったというふうに思います。ただ、その間に私も産業に力を入れて行かなければならないということを書いてきましたので、具体的な話と言うのは、確かに皆さんに私の気持ちがもっと伝わるように表明すれば良かったのかなというふうな思いはあります。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） 是非そうしていただきかったというふうに思います。そこで具体的に今度迎える副市長予定者の鈴木氏、経済産業省ということですが。名越副市長は総務省だったと思いますけれども、総務省でありながらもブルータワーをですね、これは経済に当然。リーディングプロジェクト、大きな柱として位置づけてきました。残念ながら今現在ものになっておりませんし、全然見えない状況であります。今回、総務省ではなくて経済産業省。ただ前段で色々な部署といいますか、総務省も含めてお願いをしてきた経緯があるのかもしれませんが、今回迎える副市長は経済に特化して対応するということの理解でよろしいですか。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） 主掌の部は産業振興部を予定しております。その他にも今松本議員からお話がありましたエネルギーの関係も担当していただきたいというふうに思っておりますので、市民生活部の環境課の主掌も担当していただきたい。それから先ほども私が説明させていただきましたが、企画課の中の地方創生に関わる部分、この部分も分担していただきたいというふうに思っております。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） はい、分かりました。是非期待をしたいなと。特にも私はずっと経済という部分で前熊坂市長ともやり取りをして、大きく食い違っている部分もありましたから是非期待したいんですけれども。そうしますと市長は副市長に大きな期待をすると、このことは結果を見てみないと何とも言えないんですけれども期待をしている。そうしますと今まで市長も当然トップセールス等々ですね、経済に関わる部分について各方面に、私は当然やってきたと、活動といいますか、そういったものをしていたというふうに思うんですけれども。それもほぼ副市長に代行してもらうということになりますか。対外的にも含めて。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） 対外的な色々な対応につきましては私が中心になりながら、今度来る副市長にも担当していただきたいというふうに思っています。ただ、どちらがどうするかというのは相手があることですので、首長を相手にするようであれば私がというかたちもあろうかというふうに思っておりますので、そこは上手に対応

して。山口副市長もそうですが3人体制で対応していくというようなことを考えております。

○議長（前川昌登君） 松本議員君。

○22番（松本尚美君） ケースバイケースは分かるんですけども、やはり、申し訳ないんですが首長、セレモニータ的な儀礼的な部分については市長が出向くということも当然あると思いますし。ただ、今まで私の理解では、名越副市長がどの程度、そういった今回お迎えする予定者の方とどの程度だぶるのかはちょっと分かりませんけれども。いずれ市長はお出かけになってやり取りするよりも、こういった専門的に精通している、また、国の政策的等々にも限りなく早く知りえる、情報も知りえる立場であるのかなということですから、市長はもっと楽になるのかなと。そうするともっと住み分けをどうするかということ、しっかりとしておかないといけないのではないのかなというふうに思います。市長は逆にトップセールスで副市長と同行しなくても、良い部分、これをどんどんと逆に開拓する必要があるというふうに思います。そして今度の副市長にお任せして成果を出してもらうという部分。ですから、内部は山口副市長が担当するのですが、山口副市長の仕事が限りなく無くなるのかなという思いもするんですけども。できれば、こういう場で言うのはあれですが、人事一新でお二人ということも思うんですけども。だから、その役割分担を、住み分け、これをしっかりと私は分けて。ぴたっとはいかないかもしれませんが、限りなく分けて、そして責任を持ってもらう。対応してもらう。そして、副市長には別途トップセールスとして経済的にも含めてトータル的に活動していただきたいというふうに思いますが、その点は…まあ本人がいない中で話をしてもしょうがないのかもしれませんが、どうでしょうか。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） 松本議員のご提案、ありがとうございます。分担を決めて、しっかりとこの部分は誰がやるのかも含めて対応していきたいというふうに思います。

○議長（前川昌登君） 竹花邦彦君。

○21番（竹花邦彦君） 今松本議員の方からお聞きになった部分が若干、重なる部分があると思いますが私も確認、市長の考え方を少しお聞きしたいと思います。

まず最初に市長は冒頭、産業振興、地方創生を重要な課題と位置づけて、経産省に要請をしてきたと、こういうお話でありました。当然そういう意味では最初から経産省に特化をして要請をしてきたと受け止めたんですが、そういう理解でよろしいでしょうか。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） 国の機関として、目的は産業振興であったり地方創生ですが、普通は一般的に派遣してもらうときは、一番多いのは総務省が多いんですね。総務省の人間を派遣していただきながら、そういう地方創生とかなんかもやっている部分もあります。どの省のどんなところの、どういう人がいいのかっていうのも含めて、総務省にあたったり経産省にもあたったりしながら、その中で最終的には経産省がいいのではないのかなということになって、経産省の方と調整させていただいて今回このようなかたちになったということでございます。

○議長（前川昌登君） 竹花議員。

○21番（竹花邦彦君） そうすると市長は、別に経産省という意識が特にあって最初から経産省というわけではなかった。様々な総務省も含め、あるいは代議士等の知恵を借りたかもしれませんが、色々な状況の中でどこがいいのだろうかということで、経産省がいいのではないかと、そういう経過の中で最終的には経産省から来て

らうことになったという理解でよろしいですね。

〔山本市長「はい」〕

○21番（竹花邦彦君）　そこで具体的に要請をしたのは、いつかという問題です。先ほど名越副市長が帰ってからの話を松本議員からされました。つまり名越副市長が総務省に戻ってから、やはり宮古市は副市長二人体制で行くかということで、即、国等にそうした要請をしてきたのか。あるいは、つい最近の…国に対して副市長としてお出でいただきたいと要請してきたのか。その時期はいつなのでしょうか。

○議長（前川昌登君）　山本市長。

○市長（山本正徳君）　名越副市長が帰られるときに、総務省の方に引き続きというお願いはしましたが、なかなか人材を全て出しているの、なかなか難しいという話がありました。そういう中で産業振興、地方創生に関して適格な人材を派遣していただけたところはどこだろうなというのを、様々探ってきました。具体的に経産省に要望を出したのは昨年12月です。12月に経産省の方に派遣をしていただきたいという話をして、この間調整をしてきたということでもあります。

○議長（前川昌登君）　竹花議員。

○21番（竹花邦彦君）　そこで、副市長を二人にすることの意味合いと市長のお考えを、少しお聞きしたいというふうに思います。震災以前はもちろん副市長一人体制。これが通常のパターンであります。しかし、震災が起きて震災復興という様々な課題を持ち、場合によっては国の様々な支援制度の利活用も含めて、国から副市長を派遣してもらう。そういう判断のもとで名越副市長を要請したというかたちだというふうに思う。あとで具体的な産業振興とか地方創生の課題についてお聞きしますが、現状を考えたときに更に国から副市長をお呼びする、この市長の考えを改めてお聞きしたいのですが、つまりは今の産業振興や地方創生の問題を考えたときに、現状の今の体制ではなかなか市長が考える状況は難しい。したがって国から副市長をお呼びして、なんとかして課題をクリアしたい。こういうお考えであるとすれば、今の具体的に市の現状の体制がどういうところに市長とすれば問題意識を持って、国から副市長をお呼びしなければならないのかと。この考え方を少し具体的にお聞きしたいというふうに思います。

○議長（前川昌登君）　山本市長。

○市長（山本正徳君）　経済政策であります、やはり一市、あるいは一地方都市の考えでは、なかなか今の経済状況を乗り切るのは難しいのではないかとこのように思っています。国の政策がそのままストレートに入ってくるような体制。そしてその動向を見据えながら、この宮古市の経済。どのようなかたちにもっていくのかというように、もう少し広い視野で考えていただけるような方に来ていただいて、国の組織の中の人間に来ていただいて、そして我々も経済的な面、そしてこれからのエネルギー政策等について、中央と我々のところ、それからもう少し大きく考えていく。あるいは、JETROにも居ましたので海外的な視野を求めていくような、もう少し大きな考えを持って経済を見ていきたいというふうに思っております。

○議長（前川昌登君）　竹花議員。

○21番（竹花邦彦君）　最後にしたいというふうに思いますけれども、私は今の市長の話は逆に言うと地方創生に逆行するのではないかという思いもしながら聞いているわけです。つまり国の政策をストレートに、ある意味では一地方都市がそういったものをしないと、なかなか今の状況を乗り越えられないというお話をいたしました。では国が求める、宮古市が求める地方創生とは何かと。それはきちっと地域資源を活かして宮古の良さを活かして、どう産業振興等に結び付けていくのかということが、本来あるべき地方創生の姿で産業振興に結び

付いていくということなんだろうというふうに私は思っているわけです。としたときに、国からストレートに国の政策、経済状況等取り入れるということと…だから私が先ほど聞いたのは二人目の副市長がなぜ国から呼び寄せるという理由を聞いたのはそういうことなんです。つまり今の宮古市の人材の中には、そういったものを担っていく、地方創生、産業振興を十分にやっていける人材がいないのだという、その裏返しというように受け取る方も当然あるわけですよ。私も逆に言うと様々市長とやり取りをさせていただきましたが、結局は市長はそういうように見ているのかなと。とすれば国から呼んできて、ちょっと言葉は悪いのですが、力を借りて企業誘致をしようとしているのか。何にしても分かりませんが、具体的にお聞きしますが、この産業振興あるいは地方創生といったときに、これを期待する。新しい副市長に具体的に市長が考えている産業振興では、なにを期待しているのか。地方創生分野ではなにを期待してこの方を呼び寄せるのか。そこを少し私は具体的にお示しをいただきたいというふうに思います。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） 私の説明が誤解されていると思いますし、言い方が悪かったのかもしれません。国の力を借りるというよりも、色々なノウハウを国は持っていると思うのです。ですから、そういうものを我々の経済の活動にも、あるいは地方創生にもそれらを活かしたいと。我々にとって色々な情報なり考え、そして財源。いろいろなものを、我々が必要としているものをうまく引き出すような人材に来ていただければということでやったものであります。

それからもう一つは、震災後に水産加工業などもなかなか販路が見出せなくて、非常に苦労しているところがあります。そういうのも日本国内に限らず東南アジアまで視野に入れながら、色々な活動が出来ればそれだけ幅が広がるのではないかとというふうにも思っています。これから地方創生で我々が考えたものをしっかり具現化するためにはどんな方法があるのか。そういう部分を広い視野で見えてきた人間にしっかりと指導していただくというのも、私はそういう効果もあるのではないかと考えております。

○議長（前川昌登君） 落合久三君。

○20番（落合久三君） 非公開で忌憚のない意見という意味もあると思うので、私は忌憚のない意見を述べたいと思います。今日の提案は、分った、それで行こうというふうに現時点では私はなっていない。理由があります。

一つは、復興事業は客観的にみて終盤を迎えています。国の色々な人的なことから金のことから含めて、大打撃を受けたこの被災地をどうやって復旧、復興に向かうかというときは、明らかにこれは違います。最も遅れている鉾ヶ崎の区画整備等もレールは既に敷かれて、その上に最終的な事業をどう貼り付けるかという段階のときに、なぜ二人副市長制なのか。他の被災した沿岸の自治体にも二人いたのを一人にした釜石含めてそういうことはあっても、改めてまた二人にするというのは事業の規模や市の財政規模から見てもどうなのかというのが一つ目の理由。

それから、二つ目の理由は、忌憚のない意見を述べますが、副市長にはなにも、副市長には本当に頑張ってもらって頭が下がるのですが。私の忌憚のない意見は、副市長の任期も考えてきちんと、そういう副市長を配置するのであれば、次の宮古のことを分かっている人で養成するという意味で配置するのであれば、まだ私はもう手を挙げて賛成するのですが、そういうことでもないようだ。この部分が二つ目。

それから三つ目は、具体的な人選。仮に二人制ということになれば、さっき言った現副市長の任期のことが前提になるのですが、私はもう外部からというのは止めて、産業振興ではないかもしれませんが、都市整備

部に小前さんのような非常に優秀な人を配置したばかりなので、起用するなら庁内起用を本気で考えるべきだと。また、そういうタイミングでないかなと私はそう思えてなりません。加えて今竹花議員が言ったように私も地域創生。これは3月の議会で我々も会派で行って、皆もそうだと思うのですが、あっちこっち行っていますが、やっぱり地域の資源、地域の資源と言いますのは自然的な資源、人的資源どちらも含めてですが、そういうことを熟知して、そこから構築して行くというのが私は地域創生の一番の勘所はそこであって、国のノウハウというのは端的に言えば別の色々な方法で知り得ることができるという意味で…長くなるとまずいですので、私は質問というよりもそういう意見です。しいて市長に質問するとすれば、今私が述べた復興が終盤を迎えている。現副市長の任期も考えれば後継者を育てるという意味も含めて、地元からの起用を考えるというのは本当に検討に無かったのかどうか。ここの点はお尋ねしたい点であります。

○議長（前川昌登君） 山本市長。

○市長（山本正徳君） 最初に説明しましたが産業振興と地方創生というのが頭にありまして、その意味におきまして外部登用を考えておりました。内部ということに関しましては、今山口副市長がしっかりやっただいておりますので、私は外部から専門家を入れて宮古市のこれからの産業振興、そして地方創生に寄与するような人物をとというふうな思いで、このように提案させていただいております。

○議長（前川昌登君） 他になければ、この件はこれで終わります。

なお、この件については、16日の本会議では質疑、討論を省略し採決したいと思います。これでご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） 異議なしということでございます。

説明員の入れ替えのため、暫時休憩します。

午後 1時31分 休憩

午後 1時35分 再開

○議長（前川昌登君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

説明事項（２） 人権擁護委員候補者の推薦について

○議長（前川昌登君） 説明事項の１、人権擁護委員候補者の推薦についてを説明願います。

岩田市民生活部長。

○市民生活部長（岩田直司君） それでは、ご説明します。

本件は、人権擁護委員法第6条に法務大臣が委嘱する人権擁護委員候補者の推薦を市町村が行うにあたり、議会の意見を聞くことが定められていることからご審議いただこうとするものです。

それでは、説明資料の4ページからお開きいただきたいと思います。

平成28年6月1日現在の宮古市推薦の人権擁護委員名簿でございますけれども、整理番号2番の嵯峨良子委員が平成28年9月30日、同じく整理番号15番の大棒賢作委員が平成28年12月31日付けで任期満了を迎えることに伴い、同委員を再推薦しようとするものでございます。

1ページにお戻り願います。

任期は再任された場合に嵯峨良子様については、平成28年10月1日から平成31年9月30日まで。大棒賢作様においては、平成29年1月1日から平成32年12月31日までの3年間となります。お二人に住所、生年月日は記載

のとおりであり、2ページ以降に略歴書、写真、人権擁護委員法の抜粋を添付してございますので、ご覧いただきたいというふうに思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○議長（前川昌登君） 説明が終わりました。この件について、ご質問あれば挙手願います。

松本議員。

○22番（松本尚美君） 確認なんですが、定員16名で、前段部長の説明でどなたかが辞めるんで替わりに大棒さんが新任ではないのですね。これは継続という意味ですね。はい、分りました。それから和野崎さん、非常に長くご苦労様という思いがするのですが、委員長になるのかな、委員長とかつてあるんですかこれ。

○議長（前川昌登君） 佐藤生活課長。

○生活課長（佐藤裕子君） 人権擁護委員の宮古地区の委員会がありまして、現在の委員長は嵯峨良子委員になってございます。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） はい。本人が希望するかどうかは分かりませんが、30年に亘って10期ということですから。本人がどうだかわかりませんが、できれば、この方も色々役職が多くて大変だなと思うんですけども、そこはなかなか言いづらいところもあるのかもしれませんが。どうなんですかこれ。飛びぬけて長いよね。

○議長（前川昌登君） 佐藤生活課長。

○生活課長（佐藤裕子君） ご本人のたつての希望をいただいております、非常に重要な任務だということ、出来る限り協力したいというお申し出をいただいております。

○議長（前川昌登君） 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） なければ、この件はこれで終わります。

なお、この件についても16日の本会議では質疑、討論を省略し採決したいと思います。ご異議はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） 異議なしと認めます。よろしくお願いいたします。

○

説明事項（3） その他

○議長（前川昌登君） その他ですが、松本定住化促進対策特別委員長より発言の申し出がありますので、これを許可します。

松本委員長。

○22番（松本尚美君） 皆様のお手元に定住化促進対策特別委員会理事会の会議録を配らせていただいております。4月25日に宮古商工会議所会頭、副会頭を中心に意見交換をさせていただいた内容でございます。

会議録ですので、言葉がこのまま、やり取りしたわけではございませんので、そこはご理解の上情報共有という部分で皆さんに読んでいただければというふうに思っております。また、定住化促進対策特別委員会は前段で新年度当初お認めいただいて継続をしておりますが、今年度の活動としては地域に入って意見交換をする。それで提言をさせていただいたそれぞれの施策等々ありますけれども、これをより掘り下げて行きたいなということで7月1日に小国地区に参りまして、小国地区の地域づくり協議会でしたっけか、と方々。また、

なにか精力的、積極的に対応していただいて全戸配布でこの意見交換会を公募と言いますか、していただいております。何人お集まりになるかは分かりませんし、どういった話の内容になるのか分かりませんが、いずれ各地域の地域づくりという部分で意見交換をして行きたい。また、併せて和井内地区にも申し入れをして、一旦決まりかけたんですけれども日程が合わないということでキャンセルになりましたが。あとは今田代地区にも声をかけさせていただいていますが、まだ日程が決まっておりません。理事会でもって対応させていただくということにさせていただいておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○議長（前川昌登君） 説明が終了しましたが、この件について何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） 無いようですが、事務局の方から説明がございます。

菊地主査。

○事務局主査（菊地政幸君） 定住化促進対策特別委員会の活動に関連して、事務局より情報提供というかたちでさせていただきたいと思います。お手元に8月2日から3日にかけて東京の早稲田大学で開催されますマニフェストサミット2016の開催要領を配布してございますのでご覧いただきたいと思います。

この研修会の中に委員会の活性化に関する先進事例報告というプログラムがございます。最初のページの下の方になるんですけれども。この研修会の共催者になっております早稲田大学マニフェスト研修所より、是非ここで本市議会の定住化促進に関する取り組みを、この先進事例報告として発表していただけないかということで依頼がございました。この件に関して議長、松本委員長、事務局とで協議させていただいた結果ですけれども、松本委員長に発表者として出いただくということで、発表者として派遣するということを承諾しておりますので報告させていただきます。この研修会は8月2日、3日ですけれども、政務活動費での参加が可能となる研修となっておりますので、併せてご案内をさせていただきたいと思います。

以上報告いたします。よろしく願ひいたします。

○議長（前川昌登君） 松本委員長だけでなく、皆さんもご参加できるようによろしく願ひします。

次に、内館議会広報編集特別委員長より発言の申し出がありますので、これを許可します。

内館委員長。

○9番（内館勝則君） 事務連絡的な説明になろうかと思いますけれども、先に市議会第45号の6月議会号に掲載する記事の作成についてということで、各委員長さん方に文書をお願いをしておりましたけれども。再度申し上げますが、これから向こう2年間の活動について、どのようなテーマでもって活動するのか、それぞれの委員会で話されると思います。そういったところも若干、この後に集合写真を撮りますけれども、そのところの記事を載せたいと思っておりますので。載せるスペースは少ないのですが、箇条書き程度に書いて出していただけだと。既に相談されている委員会、これから相談する委員会とあろうかと思いますけれども、よろしくお願ひしたいという連絡事項でございます。よろしいでしょうか。

〔「写真は今日撮るの」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） 菊地主査。

○事務局主査（菊地政幸君） 委員会の写真ですけれども、本日議員全協議会終了後、予算特別委員会がありますので、終了後この会場で撮らせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○議長（前川昌登君） 他に何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） 無ければ次に事務局より連絡があります。

佐々木次長。

○事務局次長（佐々木純子君） 事務局から2点連絡事項がございます。

1点目は、第11回全国市議会議長会研究フォーラムin静岡についてでございます。全国市議会議長会から開催案内があり、期日は10月19日水曜日、20日木曜日の2日間となっております。開催案内の冊子は部数が限られているため、議員の皆さまには概要版をお配りしてございます。フォーラムの詳細をご覧になりたい方、また参加を希望する方は事務局までご連絡をお願いします。なお、申込みの受付は6月24日金曜日となっておりますのでよろしくお願いします。

2点目は、16日定例会最終日での国体ポロシャツの着用についてでございます。先日ポロシャツをお持ちでない方や追加希望の方から注文を受けておりましたが、納品が間に合わないとの連絡がございました。つきましては、前回購入したポロシャツを着用してくださいますようお願いいたします。なお、前回購入しなかった方につきましては、複数枚お持ちの方からお借りいただくか事務局へご相談ください。今時点でポロシャツが無いという方は何人いらっしゃいますか。

〔「挙手する者」あり〕

○事務局次長（佐々木純子君） 5人、6人、7人。どなたか、余分にお持ちだという方いらっしゃいますか。茂市さん、北村さん。藤原さんは借りていただいてよろしいでしょうか。

では当日の朝に着替えていただくようになるかと思いますが、その分は準備しますのでよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

○

閉 会

○議長（前川昌登君） その他皆様から何もなければ、これで議員全員協議会を閉会します。

ご苦労さまでした。

午後 1時48分 閉会

○

宮古市議会議長 前 川 昌 登